プロレタリア通信 No.17 1959.8.27 共産主義者同盟 書記局

総評大会特集 1

改良主義を粉砕し、階級的方針の下に
安保改定阻止・岸内閣打倒のゼネストを！

(1) なにを「自己批判」するべきか

「この一年間の総評の斗争は、労働者に階級斗争の自覚をよびさました」岩井事務局長は、総評第十二回大会の報告の冒頭にこう言った。「総評は、たたかう抵抗体の中核として前進してきた」と。

たしかに、日本労働者階級の一年間のたたかい——何年間か経験されなかった激しいたたかいが、総評に結集する労働者によってたたかわれて来た。和歌山で・高知で・群馬で日教組の活動家が、また王子の同志が、国労志免の同志が、そして田原の同志達をはじめとして数多くの中小企業の労働者が、血を流して、資本家・政府・警察と斗った。これは、十一・五ゼネストで資本家とその政府をふるえ上らせさえした。その中で斗った労働者は、本当の階級的自覚をわがものにし労働者階級の利益のために斗い抜く決意をもった。

しかし、その斗った労働者なら誰でも、心からの不満と怒りをもって感じたことは、「この一年間の総評の斗争指導は、労働者に階級斗争の自覚をよびさまさなかった」ということだ。個々の労働者の斗争が全労働者の斗いに発展しようとしたとき、常にそれを阻止し、「たたかう抵抗体」を孤立化させたのは総評の指導だったことは、階級意識ある労働者なら誰でも全く明らかだ。

勤評斗争について、方針では「組織的によわい所があり、地域から背向する危険があった」と言っているが、勤評を、合化の合理化斗争などと切り離し、全総評の労働者の実力斗争による支援から「背向させた」のは総評の指導だ。警職法斗争が「岸内閣打倒まで行かなかった」ことを岩井総評事務局長は自己批判した。しかし、この正当な大斗争が資本家階級の支配をゆり動かし打倒するまで発展しなかったその理由は、全く、総評と社・共の斗争中止と自民党との議会におけるとりひきにあった。日本労働運動は資本家階級に大打撃を与える絶好のチャンスを総評の手で見送らされ、この時・共に斗って勝った炭労・王子の同志が、その五ヶ月間には資本の攻撃に後退せざるを得ない情勢がつくられてしまった。春斗を・安保斗争を[illegible]全く切り離した上で、賃斗と、炭労の合理化などを切り離したのは総評だ。最賃制[illegible]の眼の前で八千円をひっこめた総評と社・共両党でなくてなんだ。安保斗争をのばしにのばし、六・二五でやっと盛り上った矢先、七・二五、八・六をストをさけた会・デモにして水をぶっかけたのは総評の提案だ。

こういった一年間の大斗争のすべてにおけるウラギリがどれだけ「労働者の階級斗争の自覚をさまたげた」かはかり知れない。若し今日労働運動の中に幹部不信があるとすれば、その根源は全く総評の指導にある。

敵の攻撃の「質的変化」ということが最近しばしばいわれる。たしかに、敵の攻撃は一昨年の国労新潟斗争から変化して来た。それは、きわめて意識的、計画的に、戦斗的な労働組合に攻撃を集中しこれを粉砕して、日本の労働運動をわが手に収め、日本の帝国主義体制の強化を押しすすめようという意図を露骨にし、ストライキには必ずと言って良いほど弾圧がかけられる情況がうまれた。

このことは、斗争がそれだけ階級性を強めていることに他ならず、一つ一つの斗争が決戦的性格をもつことに他ならない。そして大衆は、この斗争に実際に立ち上っている。必要なことは何か、ただこの斗争に耐え得る指導部だ。大衆の斗争の先頭に立ち、大衆の気持ちの全体を把握し、見通しを立て斗争を切り開く指導部が極めて重要な位置をもっている。この指導部が徹底的に階級的立場に立ち指導を行うことだ。

総評の指導はどうだったか。否、これと逆だった。斗争の決戦段階での放に労働者の利益を放棄したのだ。

勤評斗争の九月の決戦段階での全労働者の実力斗争の放棄、十一・二六ゼネストの放棄はその最も典型的な現れだ。そしてその傾向は、まさしく国労新潟斗争以後の斗争の激化のなかから生まれた「低姿勢論」という斗争指導放棄のひきつがれたものに他ならない。一年間の斗争を総括し、当面する斗争方針を打ち立てる上で最大の問題はそこにある。

(2) どこがあやまっているか

[illegible]抽象的報告では「階級的」であったはずの総評大会の方針案は、具体的な斗争方針案になると忽ち[illegible]しの改良主義、労使協調に転落する。資本主義体制と社会主義体制の対立という今日の公認のス[illegible]ン主義理論で、階級対立を[illegible]出発して、いつも、労働者階級の（つづく）

所有をめざすのではなく、よりよい資本主義をめざすこの方針は、その根底からたゝきこわされねばならぬし、それさえたゝきこわせば、それほど難しいことを言わなくても斗争は組める。

賃斗について

岩井事務局長は、「人間なみの生活のできる賃金」がわれわれの目標だ、と言った。「労働力の価値どおりに物価が上昇しているから賃上げがいる」と言う。これには階級的立場が全然ない。去年から今年にかけての賃斗が示したものは何か。鉄鋼の賃斗で、私鉄の賃斗で、示されたものは、敵が賃金を低賃金におさえつけて、合理化とひきかえたり保安協定主義にひきかえたり階級協調主義とひきかえたりする階級的な攻撃の材料としていること、したがって、賃斗における階級的立場とは、資本の政治・経済攻撃との全面的な斗いのなかで賃斗を考えること、そして「低賃金構造の打破」というような日本資本主義の改善を考えるのではなく、大巾賃上げという労働者の生活の防衛だけを考え、合理化・安保と合わせた大斗争のなかで、賃金をかちとることを考えろ!!

合理化について、

は、要求を積極的に対置して行くという方針の必要性と、到達斗争が弱かったということが指摘されているが、炭労の斗争でも、王子の斗争でも、合化の斗争でも、電通の斗争でも、国労志免の斗争でも、現実の合理化反対斗争のなかで示されたことは、要求の「対置」という空虚な言葉ではなく、資本家階級が資本蓄積の増大のために押しすゝめている合理化にたいして、徹底的にその階級性をバクロし、斗争を労働条件改善かさもなくば絶対阻止とかの立場で組むこと、そして個々の斗争を全産業の斗争で支援することである。

合理化は、労働者にとっては労働条件改悪、首切りというむき出しの攻撃であり、資本主義の矛盾のむき出しのあらわれである。しかもそれは、必死の資本間の利潤追求競争と、帝国主義市場争奪戦と、さらに、資本家階級の政治委員会たる政府を通しての国家的施策としてすゝめられているものである。だから、最も危険なのは、この合理化を階級的立場で明確に把握すること、そしてこのように合理化を無階級的にとらえて、資本家の手による合理化が労働者の手による合理化かという観念的論議をすて、資本の手による合理化にもとづく労働条件の改悪を阻止するために斗うことが必要なのだ。

政治斗争について

大体、権利斗争とか、平和と民主主義と独立を守る斗争とか言って斗争を種々に分けて、一つ一つ別々に斗いの目標をのべること自体があまり意味がないのだが、ここでは改良主義は、とくに極端に現れている。安保条約が出された時、それが日本の資本家階級の運動においてではなく、安保体制という非階級的なとらえ方がされている為に、これとの斗いが階級斗争の一つとして出て来ない。「職場で活動すると同時に、日常的に街頭で、地域で、地味な粘り強い平和活動をする」とか、「労働者個人の自覚がなければ迫力のある斗いが出来ないから、まず学習する」とか、「総評を中心に巾広い統一戦線をつくる」とかで、安保斗争の現時点における特殊な重要性、安保のゼネストを他の斗争と一緒にぶっつけて資本家階級に打撃を与えるという方針が全然出て来ない。他の斗争と安保斗争は全くきり離され、個々バラバラに分散した資本家と労働者の斗いを一つに結合し、階級斗争とするものとしての斗争の意義は全くどこかへけしとんでしまう。そしてそのかわりに非階級的な「統一戦線」論が出て、革新勢力の大衆行動が強調され、労働者の斗争は影がうすくなってしまう。

(3) 何を斗うか

総評大会に全国の労働者が期待していることは、具体的斗争方針で完全な一致をかちとること、明日からの行動方針をきめることだ。

第一。秋の安保条約改定阻止・岸内閣打倒のゼネストを決議すること。日本ブルジョアジーの帝国主義的膨張のための政策安保改定をゼネストで阻止せよ! 岸帝国主義内閣を打倒せよ! 現在、岸が自己の完全なヘゲモニーの下で、最も有利な次元で調印を行なうべく調印が延期された。総評幹部は調印の延期にともなって斗争も延期しようとし、来年に斗争をのばそうとしているが、今、この秋に斗いを起さねばならない。九月八日をストで斗え! 十月臨時国会冒頭にゼネストで岸内閣を打倒せよ!

共産党は、安保改定阻止の統一戦線をせばめるという理由で「岸内閣打倒」に反対している。安保改定阻止斗争を階級的立場から斗う事が出来ない全くの日和見主義だ。社会党では岸内閣打倒のスローガンに国会解散をつけ足している。これは全く議会主義的スローガンであり、大衆斗争を議会の中にひきこむ役割を果す。岸内閣打倒は、国会解散・選挙によってではなく労働者の実力斗争でかちとるのだ。

第二、合理化反対斗争を、この斗争と合わせてともに斗うこと。産業別統一斗争で斗うこと。このように狙ってかけて来る合理化は、同一産業の他の部分に波及するのであり、全産業の労働者が統一斗争で支援し、一つの合理化をぶっつぶせ!! 国労では志免斗争につゞいて南西線の合理化が行われ、二百名の首切りが出ようとしており、専売の労働者も斗っているが、これが結びつけられて一つの斗いになるような統一は全然ない。これでは斗えない。「時間短縮」「到達斗争」などという勇ましいカケ声で何もやらないのではなく、安保改訂阻止・岸打倒のゼネストのなかで、炭労・国労志免の労働者とともにたゝかえ!

安保改定阻止と岸打倒、合理化粉砕のゼネストと同時に、他の要求をくめ!

官公労の賃斗を秋の予算編成期からくめ!

日教組の勤評提出阻止斗争を全労働者の実力斗争とせよ! 専従者数制限を全官公労の実力斗争で粉砕せよ。

第三、斗争のための戦斗体制を強化せよ! 総評常幹に階級的幹部を選べ!

職場にストライキ委員会を結成せよ! 地区に工場代表者会議を結成せよ!

真の前衛党を結成せよ!

革命的労働者は共産主義者同盟に結集せよ!